



同窓会会長
堀江 裕宗
2003年3月卒業 科学技術学部
応用情報工学科
(現:知能情報システム学科)

会長挨拶

一年前に思い描いていた今はオリンピックの興奮さめやらぬ日々のはずでした。世界中でコロナの甚大過ぎる影響を想像する事は不可能だったと思います。会員の皆さんもSARSやMERSの時とは違い多大なる影響を受けていると思います。大学も夏の時点ではリモートで授業をしており、実習などに支障が出ており学生の皆さんも不安が大きい状況です。

不安を挙げればきりがありませんが、ソーシャルディスタンスやリモートワークなど世の中がコロナ禍による新たな生活様式が生まれ、そして徐々に順応して来ていると思います。ピンチの時こそチャンスとはよく聞きますが、まさに今がその時と言えるでしょう。

5月末に行われた理事会は初めてWebで開催しましたが議事自体は滞りなく進める事が出来ております。そのうえで時間を含めた会場の準備や移動のコストを大幅にカットする事ができ、今までタイミングが合わず参加出来なかった理事も参加するなど今後の開催形式を見直す機会になりました。

一刻も早くこのコロナ禍が治まってくれる事を願うばかりですが現状を乗り切り、その先を見据えていかなければなりません。その中で同窓会がどういった事で皆さんの力になっていくのかまだ明確にはなっておりませんが、少しでも皆さんのお力になれるような運営を行っていきたくと思っています。

2019年3月現在 正会員数 9,643名



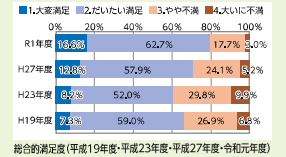
学生部長
同窓会監事
須藤 諭
科学技術学部
学部長

学生部長挨拶 学生生活実態調査について

同窓会の皆様、大変にお世話になっております。私は、2020年3月に学生部長の2年の任期を終えたところでしたが、さらに2年間に当たるような命を受けました。したがって、同窓会監事も引き継ぎさせていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

3年前にもご紹介したのですが、本学では、「学生の日常生活および勉強への取り組み状況を把握し、キャンパスライフの質の向上を図るための基礎資料を得ることを目的として、毎年、学生生活実態調査を行っています。調査内容は調査開始以来7つのカテゴリが設定され、4年毎に7つすべてのカテゴリの質問項目について調査する“大調査”を実施しており、1回目が平成19(2007)年度、2回目が平成23(2011)年度、3回目が平成27(2015)年度に実施され、令和元(2019)年度が4回目の大調査となりました。平成23(2011)年度調査では、「総合的な満足度」が、平成19(2007)年度調査より低下し心配されたのですが、平成27(2015)年度調査では、肯定的評価が回復し、今回の令和元(2019)年度の調査では、さらに肯定的評価が上昇しております。この間、本学では本格的な自己点検・評価による改善活動や、中期計画・中期目標を定めての事業計画に取り組んできており、それらが奏功してきたと評価できそうです。しかし、まだ2割程度の学生が否定的評価を下していることも、注視しておかなければなりません。

さて、この令和2(2020)年度においても、例年の通り調査の実施を考えておりましたが、大学は新型コロナウイルス感染症拡大防止に対処しなければならない状況です。さらなる改善に結びつけていくためには、設問そのものを見直す必要に迫られるなど、コロナを契機に調査自体の再構築も検討する必要があると考えております。同窓会の皆様からもご指導をいただきたく、お願いする次第です。



特集「コロナに負けない」～同窓生の思い・取り組み～



2020年度は新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた時期に始まりました。

本学を卒業し、医療や福祉関係の第一線で活躍する卒業生の皆様におかれましては本当にご苦労の多い中、一生懸命に取り組んでくださっている方がたくさんいらっしゃると思います。

今回は新生活様式に負けずに活躍されている卒業生をご紹介します！



コロナに負けない

2009年3月卒業 医療福祉学部 保健福祉学科 保健福祉専攻
仙台市議会議員

山下 純



平成21年に卒業して早や12年が経ちました。卒業も間近に迫ったころ現在の仙台市長である衆議院議員時代の郡和子さんにお会いする機会があり、福祉分野の賃金は国で定めているという話から、政治に関して興味を持ち秘書として10年間勤めました。

学生中(は「議員になろう」そんな事は考えたことはありませんでしたが、この度のコロナ禍で注目されているエッセンシャルワーカー、他の業種と比べ労働に対する対価が見合っていない。このことは在学生中も考えていました。コロナの影響のご相談に追われながらも生活面、事業者の皆さんの不安を行政としてどのように解決できるかを議会の場で議論している毎日です。

今後第2波も予測されますが想定外を想定し様々な制度・条例を東北文化学園大学の卒業生だからこその提案し、今後も皆様の生活が向上するよう政治の場で尽力させていただきます。どうぞ皆様もご愛ください。

変わったこと・変わらないこと

2011年3月卒業 リハビリテーション学科 作業療法専攻
医療法人 仁泉会 介護老人保健施設とより 作業療法士

櫻井 僚



作業療法士専攻9期生として入学し、卒業してから早9年が経過しました。世間ではCOVID-19の世界的流行に伴い情勢が相ましく変化している中で、それに合わせて自分自身の生活も変えながら日々過ごしています。

変わったことは、基本的に行う感染予防の徹底に加え、業務においては定期的に行っていた買い物練習が行えないなど業務の幅が狭まった事や、日常的に活動量が減少した利用者さんの増加により、それを補えるような支援方法を今まで以上に模索しなければならなくなった事です。また、私事ではありますが、長女が生まれ悪銭苦しいながら仕事と私生活の両立に向け奮闘しています。

そのような変化が著しい生活の中でも変わらないこともあります。それは、利用者さんから「皆さんも大変な中、ここは変わらずにやってくれていて有難い。」などのお言葉を頂く中で感じるやりがいです。また、その期待に答えるための日々の自己研鑽の大切さは変わらないと感じています。

今後も、時代に合わせて変えていかなければいけないこと、変わらずに持ち続けなければならないものを見極めながら、利用者さんにとってより良い作業療法の提供に向けて、様々なことに挑戦し頑張っていきたいと思っています。

総合政策学部で学んだこと

2013年3月卒業 総合政策学部 総合政策学科
株式会社GP Limited Bridge&ケイ

郷家 弘高



総合政策学部総合政策学科を卒業してから、8年が経ちました。入学当初は友達ができず、「休んじやうかな」といつも考えていました。そんな時先生に、資格取得を目指す先輩や同級生が共に学場に誘ってくださり、だんだん学生生活に慣れることができました。活動の中で学んだだけではわからない、人との関わり方やコミュニケーションの大切さを教えていただきました。

卒業後に就職した会社が自分と合わずに悩んでいた時も、先生や就職課の方に相談し、会社は思い切った辞め、紹介していただいた専門学校に通って資格を取ることになりました。

現在は、重慶心身障害サービスで言語聴覚士として働いております。新型コロナウイルスの流行によって県内の支援学校が休校になり、デイサービスを利用する子どもが増え、一人一人にかかわる時間がとても少なくなりました。どうしても子どもたちにとってデイサービスが楽しい場になるのか、保育士や理学療法士の先輩方と話し合い、試行錯誤を繰り返しました。現在は子どもたちとしっかり関わる時間が増え確保でき、子どもたちの個性が引き出される体制になってきています。

職場の体制を向上させるのにあたって、総合政策学部で学んだ人との関わり方や、コミュニケーションの大切さをあらためて実感したところです。これからは就職先で十分に話し合い、子どもたちにとって安心安全で楽しく成長できるサービスを目指し、日々精進していきたいと思っています。

小さな幸せ

2017年3月卒業 リハビリテーション学科 言語聴覚専攻
総合リハリケア研究所 言語聴覚士

松原 亜矢 (旧姓: 太田)



私は、言語聴覚士4年目です。まだまだ未熟ながら、日々患者様と関わり、より良いリハビリテーションを提供できるよう努力しています。

そんな中、新型コロナウイルス感染症拡大により、様々な制限が増え、今までの日常を送ることが難しくなっています。

不安な日々を送る中、今できることは何かと考えました。幸い、私が勤めている病院は、院内の制限はありますが、通常通りリハビリテーションを提供できています。患者様の不安を少しでも軽減できるよう、今まで通り、明るく、元気に、接することを心がけています。このような状況だからこそ、「いつも通り」を忘れずにいることが大切だと思いました。

生活が変わったとしても、人の心は変わりません。幸せを感じる事ができます。仕事ができる幸せ、人と関わる幸せ、支えてくれる人がいる幸せ...日々感じることができる小さな幸せを見つけ、辛い今を乗り越えていこうと思います。

生活の変化

2012年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻
東北文化学園大学 大学院 健康社会システム研究科
一般財団法人 周行会 内科 佐藤病院 リハビリテーション科

小幡 健



大学卒業後、東京の病院に理学療法士として就職し、6年ほど働きました。その後、仙台市内の病院に再就職したと同時に、本学の大学院への進学を決めました。職場や家庭の理解、大学院の同級生や先輩、先生方のご協力もあり、日々仕事と学業の両面を行っていました。しかし、3月頃から新型コロナウイルスが日本国内で流行してきた影響は、仕事・大学院のどちらも例外なく受けました。

当院における影響は、コロナウイルス患者を受け入れている病院に比べると微々たるものですが、系列のクリニックが2週間ほど閉鎖するといった措置が取られた時期もありました。未だコロナウイルスの収束は見えず、現在も仕事と学業に様々な影響が出ています。当院のようにコロナウイルス患者を受け入れている病院・介護施設等が通常に近い形で稼働することが、最前線で治療にあたる方々の負担を少しでも軽減させることを信じて、感染対策を遵守し、仕事・学業の両立を目指していきたいと思っています。

新しい生活

2020年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 看護学専攻
看護婦人科 看護士

鈴木 渚



視能訓練士として東京の大学病院に就職してもう3ヶ月経ちました。一人暮らしや社会人としての生活が初めての中、新型コロナウイルス対策により何もかも初めての経験で一人暮らしと仕事の両立が出来るのか心配が募る毎でした。私の働いている病院では、患者さんとの接触機会をできるだけ少なくするように検査も最小限に抑えて対策をとっていました。また、緊急事態宣言のため例年より患者数が少ない時期もありましたが、その分しっかりと時間をかけて先輩方から丁寧な指導を頂いたため今では少しずつ仕事に慣れてきました。まだまだ分からないことや患者さんへの対応で悩むことがありますが、向上心を持って先輩方からたくさん事を学びたいと思っています。

上京してすぐに緊急事態宣言により外出自粛となり、いつ友人や家族に会えるのか不安の日々が続き思い描いていた生活とは少し違いましたが友人や家族、職場の先輩に支えてもらいこれからは、支えてくれた方々に恩返しできるように日々努力していきたいです。

在校生の皆さんも今までの生活とは少し変わってしま今後どの様になるかわかりませんが、常に向上心を持って勉強を通して適度に息抜きを楽しみながら悔いのない大学生活を楽しんでください。

私にできることは...

2015年3月卒業 科学技術学部 人間環境学科
日本住宅株式会社 仙台支社 設計課主任 一級建築士

遠藤 茜



本学を卒業して早6年、私は現在仙台市内でアパートの設計を行っています。コロナの影響により、さまざまな職種の方が苦労を強いられています。私の勤める会社は不動産を取り扱っていることから、需要が減ることもなく、幸いにもコロナの影響はあまり受けずに済んでいます。

私のように、実はコロナの影響をあまり受けていない企業というの、少なからずあると思います。今こそ、苦しんでいる方々の分まで、踏ん張って経済を回してゆけるのではないかと思います。

個人的にできることとして、家電を買替えたり、普段は買わないお店のお弁当を買ったり...

自分にできる範囲でいつもより少し多めに買い物し、給付金もしっかり使い切ることが、経済支援に繋がるのではないかと思います。

この先コロナが終息したとしても、経済活動が停滞しては、今と変わらず苦しむ人は増えてゆく一方です。

いつもの日常を取り戻す為にも、「しっかりと働き、しっかりとお金を使う」ことが、私の私にできることではないかと思っています。